

那珂川市

(福岡県)

「住む」から「暮らす」へ 選ばれる自治体を目指して

那珂川市長

たけすえしげき
武末茂喜



平成30年10月1日に、市制施行により「那珂川市」が誕生しました。

那珂川市誕生までの経緯

那珂川市は、福岡県の西部にあつて大都市福岡市の都心部からわずか13kmのところに位置し、北部・西部は福岡市、東部は春日市、大野城市、筑紫野市、南部は佐賀県

に接しています。自然豊かな南部地域、田園と住宅が交じり合う中部地域、都市化した北部地域とそれぞれの地域に魅力があります。

前身の那珂川町は、昭和31年4月に町村合併促進法に基づき南畑村、岩戸村、安徳村の3村が合併し誕生しました。発足当時の人口は、8948人でしたが、昭和40年代後半には、数次の土地区画整理事業により良好な住宅都市が形



夏の祭典「祭りなかがわ」の花火打ち上げ

成されたことで、昭和50年から昭和60年にかけて国勢調査人口増加率が3回連続で福岡県内トップとなるなど、大幅な人口増加が続きました。さらに、平成2年のJR博多南線開業を契機として交通アクセスが飛躍的に向上するなど、その後も人口増加が続いてきました。

また、平成22年国勢調査において人口5万人にあと一步届かず涙のんだ経験から、人口のさらなる増加と定住化を推進するため人口増加策を展開してきました。その結果、平成27年国勢調査において悲願の人口5万人を突破し、福岡県内では21年ぶりの単独市制施行を成し遂げることができました。

快適さと癒やしを備えた住みよいまち

本市は、「快適さ」と「癒やし」の2つの魅力を一緒に感じることができるまちです。都心部への交通アクセスが良く、全国的にも珍しい新幹線の回送車両を利用したJR博多南線があり、博多駅と本市を最短8分で結んでいます。また、市内にはコミュニティバス「かわせみバス」が走り、通勤・通学、買い物などにとっても便利な「快適さ」があります。一方で、まちの中心部から車で10分ほど南へ走ると、滑らかに流れる那珂川、幾重にも連なる脊振連山と緑豊かな筑紫耶馬溪など、四季を感じながら美しい景観を望むことができ、心と体に「癒やし」を与えてくれます。



日本書紀に記載のある農業用水路としても知られている「裂田溝（さくたのうなで）」



鬼に抱かれた子どもは丈夫に育つと言い伝えがある伏見神社の「岩戸神楽」

地方自治体を取り巻く環境は、少子・高齢化による人口減少、地方分権の進展、住民ニーズの多様化・高度化など、大きく変化しています。この

人や企業に「選ばれる自治体」を目指して

公園等の整備を進めており、アウトドアの拠点として自転車、トレッキング等が一年中楽しめるように計画を進めています。

鬼に抱かれた子どもは丈夫に育つと言い伝えがある伏見神社の「岩戸神楽」

また、平成27年の国勢調査では、15歳未満の年少人口が17・4%で県内3位、平均年齢も42・1歳で県内3位であり、働き盛りや子育て世代が多い元気な市です。このため、本市では子育て支援を市の重要施策に位置付け、平成26年に子育て支援拠点となる「ふれあい子ども館」を開館し、また、待機児童解消に向けて私立保育園の開園や学童保育所の増改築を計画的に行っています。

ような中、今後は近隣市とは違う魅力的な行政サービスを提供していくことが重要であると考えています。本市では、市制施行を契機として自治体としての総合力を高め、魅力的なまちづくりを進めることで、人や企業に選ばれる自治体として継続した成長を実現したいと考えています。

そのためには、市制施行により基礎自治体としての権限を広げ、地域の実情に合った質の高い行政サービスを提供することが必要不可欠です。また、都市的なイメージの向上といった利点を最大限活用し、人口増加、新たな企業の進出や雇用の創出に向けた取り組みを積極的に進めることにより、さらなるまちの活性化や税収の増加、財政基盤の

安定につながるものと考えています。「市制施行は通過点」です。今後ますます複雑化、多様化する行政需要に的確に対応していくためにも、これまで以上に市民と行政が一体になり「オール那珂川」の取組みを進めながら、那珂川市のまちづくりを進めてまいります。

新市プロフィール



- 人口 5万245人
- 世帯数 2万638世帯
- 面積 74・95 km²
(平成30年8月31日現在)

●主要産業・特産品

ヤーコン

●観光名所・旧跡

五ヶ山クロス、中ノ島公園、グリーンピアなかがわ、裂田溝、安徳大塚古墳、丸ノ口古墳群、岩門城跡

●行事・イベント

岩戸神楽(7月)、輪ごし(7月)、祭りなかがわ(8月中旬)、現人神社のおくんち(10月)



現人神社(あらひとじんじゃ)の秋祭りで奉納される「流鏝馬神事」